

都市再生整備計画 事後評価シート
加茂市街地地区

平成31年3月

新潟県加茂市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	加茂市	地区名	加茂市街地地区		面積	770ha						
交付期間	平成26年度～平成30年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	578.7	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	八幡の森公園、信濃川河川敷桃の花公園、都ヶ丘公園、新町多目的広場、新町木造雁木づくり、新町交流センター											
		提案事業	準用河川堰ノ川、事業活用調査事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①新町多目的広場整備事業 ②既存建物活用事業		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	①準用河川堰ノ川浸水対策整備事業		①提案事業から基幹事業へ移行した。		①事業の移行のため影響はない。							
	新たに追加した事業	基幹事業	①幸町公園整備事業 ②北地域交流センター駐車場整備事業 ③準用河川堰ノ川パイパス排水路整備事業 ④北地域交流センター		①防災計画の見直しにより市役所周辺の避難場所が不足していることから事業を追加した。 ②住民説明会の意見から、利用者駐車場の必要性が生じたため追加した。 ③提案事業から基幹事業へ移行した。 ④当該地域に身近に利用できる交流センターがなかったため追加した。		①既に設定している「避難場所の認知度」を指標とする。 ②駐車場整備による指標等への影響はない。 ③事業の移行のため影響はない。 ④当事業の効果を把握するため「指標5:交流施設の年間利用者数」を追加した。							
交付期間の変更	当初変更	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度							
	指標1	新町木造雁木 歩行者数	人/日	450	平成26年	900	平成30年	—	348	△	あり なし	●	目標値は下回ったが、事業途中でることから第二期計画による事業完了後に再度計測することとする。	平成35年7月(雁木全区间整備後)
	指標2	避難場所の認知度	%	0	平成26年	70	平成30年	—	55	△	あり なし	●	目標値は下回ったが、幸町公園が事業途中でることから第二期計画による事業完了後に再度計測することとする。	平成31年5月
	指標3	探訪ツアーの参加者数	人/回	150	平成26年	200	平成30年	580	759	○	あり なし	●	今年度は実施されず推計による見込み値としたが、これまでも参加者数は年々増加しておりモニタリング時点で目標達成している。近年はルート設定に新町商店街なども組み込まれており、本事業における新町雁木整備などもツアー参加者の増加に寄与したものと考えられる。	平成31年5月(ツアー実施後)
	指標4	交流施設の年間利用者数	人/年	272,000	平成27年	273,000	平成30年	268,640	249,318	△	あり なし	●	目標値は下回ったが、第二期に新町交流センターの整備を予定していることから、第二期計画による事業完了後に再度計測することとする。	平成35年4月(新町交流センター整備後)
指標5	黒水地区における浸水予想面積	ha	3.2	平成29年	0	平成30年	—	0	○	あり なし	—	整備により、当該地区における浸水面積が解消された。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度							
その他の数値指標1														
その他の数値指標2														
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等							
	モニタリング	指標4:探訪ツアーの参加者数 指標5:交流施設の年間利用者数	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●										
	住民参加プロセス	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	持続的なまちづくり体制の構築	・新町の景観審議会の継続	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●										

様式2-2 地区の概要

加茂市街地地区(新潟県加茂市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
近年の異常災害等の突発的災害に素早く対応できる防災都市づくりを目指し、既存市街地内の都市基盤整備を進め、災害に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりを進めると共に、北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを目指す。 ①防災に強い安全で安心して暮らせる魅力ある地域づくりを目指し、住宅密集地域に、不足している防災空間としての公園等オープンスペースの確保、恒常的浸水区域の解消を図るため小河川の整備など防災に素早く対応できる防災性の高い都市基盤整備により既存市街地の再生を図る。 ②商店街メインストリートの都市計画道路宮寄上加茂線(新町街区)の道路拡幅事業と商店街近代化事業に併せ歩道敷に全国で初めての和風耐火木造雁木造りを進めると共に文化的古民家の建物群の保全に努め北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを推進し文化的観光交流都市の実現を目指す。		新町木造雁木 歩行者数	人/日	450	平成26年	900	平成30年	348	平成30年
		避難場所の認知度	%	0	平成26年	70	平成30年	55	平成30年
		探訪ツアーの参加者数	人/回	150	平成26年	200	平成30年	759	平成30年
		交流施設の年間利用者数	人/年	272000	平成27年	273000	平成30年	249318	平成30年
		黒水地区における浸水予想面積	ha	3.2	平成29年	0	平成30年	0	平成30年
		凡 例 事業対象エリア境界線		0 500 1,000m		凡 例 ■ 基幹事業 ■ 基幹事業 □ 提案事業 □ 提案事業 ○ 関連事業 ○ 関連事業			
まちの課題の変化	事業前の課題として、 ①突発的災害に素早く対応できる防災都市づくり、②雁木造りと文化的古民家の建物群の保全による北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりが課題として挙げられていた。このうち、①については、水害対策や避難場所の確保により課題解消したが、周辺地区では未だ避難が困難な地区も残されている。②については、探訪ツアー参加者の増加など効果がみられる一方で、市街地の回遊性の向上やまち歩きの出発点整備などの課題が新たに発生している。								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	(まちづくりの方策) ①加茂古道や市街地の日常的な来訪、利用の増加 ②市街地地区と市役所周辺との連携、回遊性の創出 ③大勢の来訪者を受け入れる収容力の強化 ④避難困難地域における安全性の確保 (改善策) ①新町雁木の延伸により、北越の小京都としての風情あるまちづくりをさらに進める。 ②市役所周辺にまち歩きの起点やイベント活用できる広場を整備するとともに、市街地の各所にまち歩き時に気軽に立ち寄れる場を設け、市街地地区と市役所周辺の回遊性を高める。また、新町雁木の延伸を検討する。 ③まち歩きやイベント時に駐車できる広場や休憩、情報収集できる場を設ける。 ④避難場所まで遠い地区に一時避難できる広場を設ける。								